

麾下き かの士な(旗本の武士)何某なにがしの町奉行になられし時ほったちくげんのかみ、堀田筑前守うったへ殿の「必らず相手にならぬやうにあれかし(あれよ)」と申されしに、何某其時は合点ゆかざりしが、訟うったへをきくにいたりてはじめて心付きしといはれしとぞ。訟をきくは公の事ながら、悪にくしとおもひ、むづかし(不快だ)とおもへば、必ず其人を我が相手とおもふやうになるものなり、我 詞わがことばするどくなれば、其人言を尽すことあたはず、必ずかたききになりて、取さばき平かならず、相手になるなといはれしは金言なりと、子孫にもいひ置かれしとなり。

とある旗本の武士が町奉行になった時、堀田筑前守に「決して相手にならないように」と言われ、その町奉行は合点がいかなかったが、訴えを聞くようになると分かるようになった。

訴えを聞くことは公のことであるが、気に入らない、不快であると思えば必ず自分と対立する相手と思うようになるもので自分の言葉は鋭くなり、相手は言葉を尽くすことが出来ず、一方的な聞き方になり、取りさばきが公平ではなくなる。相手になるなどは金言であると子孫に言い伝えた。

- (1). 「相手にするなと言われたがよくわからなかった。訴えを聞くようになって理解できた。」

ということで訴えを話してくる相手のことを指している。

訴えを聞くことは公の事とあるので適当な選択肢としては仕事で協力する相手

- (2). きく、いはれし、いはれし、いひ置かれし

(a) 訟うったへをきくにいたりて

(b) はじめて心付きしといはれし

(c) 相手になるなといはれしは金言なり

(d) 子孫にもいひ置かれしとなり。

(a)、(b)、(d) は町奉行、(c) は筑前守

- (3). 言を尽くすことあたはず

言・・・言葉 尽くす・・・出し切る あたはず・・・できない

言いたいことが全て言うことが出来ないという意味であり、選択肢としては

言いたいことをすべて言うことができない

- (4). 筑前守の言葉を何某がどのようにうけとったか

親身になって訴えを聞いていると不快な思いなどから片側に肩入れしていまい公平ではなくなるので、筑前守の「相手にするな」とはいい言葉だとおもった。

ということが書かれているので、常に公平に判断して裁けるように心がける

- (5). 文章の内容

人の訴えを聞くことが仕事の町奉行になった旗本が、筑前守に「相手にしないように」と言われ何を言っているんだろうと思った。しかし、訴えを聞いていくうちに、不快だと感じた人に強くあたったりして、訴えをすべて聞けない場合もある。これでは公平さを保てないので筑前守の「相手にするな」とは良い言葉であると思い、子孫にも伝えた。

適当な選択肢は筑前守の言葉を優れたものだと考えるようになった